

生産規模の拡大を求め他市町村に参入 (株) カラーリングファーム (福岡県久留米市)

【取組内容】

(株) カラーリングファーム (梶原氏は、大学卒業後、1年間のオランダでの研修を経て親元就農。平成17(2005)年頃に経営を継承し、平成23(2011)年に法人設立) は、福岡県久留米市 (旧北野町) でラディッシュ等の有機栽培に取り組み、令和5(2023)年には、隣接する朝倉市に参入し、生産規模の拡大を実現している。



(株) カラーリングファーム
代表取締役 梶原憲一氏

【取組に至った経緯】

同法人設立当初は、慣行栽培を行っていたが、農薬の効果低下等による収量悪化が顕著になっていたことに加え、農業分野でも環境保全が重要との認識に至り平成29(2017)年から有機栽培へ転換した。

有機栽培への転換によって資材コスト (肥料・農薬等) の低減を実現するとともに、新たな取引先 (生協等) を確保し、直接販売により販売単価が向上した。



(株) カラーリングファーム全景

【取り組む際に生じた課題と対応】

有機栽培への転換によって新たな取引先も確保し、これからという時に4年連続で水害による売上減少に直面。当時、収益確保に向けて規模拡大を模索していたが、近隣での農地確保は難しく地形的にも水害に弱い地域であったため市外に農地を探すことを検討していた。

(株) カラーリングファームを含む被災地域の園芸農家は、こういった地域の現状に鑑みて農地の確保を県に要請した。

【取組の成果】

要請を受けた県は、担い手への農地の集積・集約化を主な業務としている公益財団法人福岡県農業振興推進機構に県技術職員5名を派遣し、新たに農地利用調整戦略室を設置し、県内の農地の集積・集約化に取り組むこととなった。

機構は(株) カラーリングファームが参入する候補地を朝倉市杷木久喜宮地域に設定し、市長と面談。市長には、基盤整備を実施した農地への一部入植者を市外の法人等に求める方針等を説明。その他、今後の農地利用について、土地改良区の受益農地全地権者に対しアンケート調査を実施するなど機構が、市やJA等の関係機関との調整や地権者との調整も行い(株) カラーリングファームが参入できる環境を整備し、参入を後押しした。

【今後の展開】

(株) カラーリングファームは、令和5(2023)年、朝倉市に1.4haの農地を確保。基盤整備された農地に大型ハウスを設置し、ラディッシュ等を栽培。既存の久留米市の農地 (ハウス2.8ha、露地3.7ha) とあわせて、2地域での営農により経営の安定化を図ることとしている。



ラディッシュ

地域を守るために3つの農事組合法人が合併 (（農）アグリストあじむMIRAI：大分県宇佐市)

【取組内容】

平成18(2006)年頃、宇佐市（旧安心院町）では、米価格の低下と農業機械類の高騰の影響から小規模農家の経営が困難となっていたことから複数の集落営農法人が設立された。

それから20年が経過し、次期担い手やオペレーターの不足、組合員の高齢化等で解散や組織運営の先行きに不安を有する組織が出てきた。

合併した3法人は、それぞれの経営上の課題を克服し、地域農業を守るために合併を選択。令和7(2025)年4月に（農）アグリストあじむMIRAIが誕生した。



令和7年4月の臨時（合併）総会

名称	(農) こがらこ生産組合	(農) 荘グリーン	(農) アグリストあじむ
経営上の課題	・組合員が設立時の6名から4名に減少、作業は2名で実施。 ・農地の一部は、谷間に位置するなど地域内での規模拡大は困難な状況であった。	・構成員が高齢化等で年々減少。 ・作業は代表者1名で行うため、作業の負担が大きく、今後の活動に支障が出ていた。	・受託面積が年々増える中、オペレーターと機械整備が追い付かない状況となっていた。

【取組に至った経緯】

安心院地域の集落営農法人が担い手やオペレーター不足、組合員の高齢化により組織運営の継続に不安を抱えていることを把握していた県振興局が、令和5(2023)年8月に旧安心院町の集落営農法人を対象に、今後の経営ビジョンについて考える研修会を開催した際にアンケート調査を実施。アンケート調査の結果、3法人（（農）こがらこ生産組合、（農）荘グリーン、（農）アグリストあじむ）から、連携・合併に前向きな意向が示されたため集落営農法人再編検討会を立ち上げ、3法人と合併に向けた検討を開始した。その後、合併協議会、合併準備委員会で合併の実務や合併後の経営内容の検討及び法手続き等について専門家の指導を仰ぐなど検討を繰り返し合併することができた。

経営概要

- ◆経営規模 農地面積52.6ha
- ◆主品目（令和7年度）
水稲（28.2ha）、WCS（14.9ha）、麦類（24.1ha）、大豆（7.5ha）、枝豆（2ha）、椎茸（4万駒）
- ◆構成員（令和7年12月時点）
21名、オペレーター7名（専業5名、兼業2名）
- ◆これまでの経緯
平成18年：（農）こがらこ生産組合設立
平成23年：（農）荘グリーン設立
令和3年：（農）アグリストあじむ設立
令和7年：（農）アグリストあじむMIRAI設立

【取り組む際に生じた課題と対応】

合併にあたっては、3法人の現状や課題の共有、合併の合意、運営方法の確認、合併手法など必要な手続きに対する支援が必要であったことから県は、大学講師による経営のワークショップや税理士からの指南を受けれるよう手配。一方、3法人は各法人の内部の調整（構成員への理解等）を実施するなど合併に向けて対応した。

【取組の成果】

3法人は、合併によりそれぞれの弱み（オペレーター不足や、農業機械不足等）を補完することができ、新たな雇用計画を考えられる法人となり解散や組織運営の先行きの心配がなくなった。

【今後の展開】

新法人では、合併前から他法人の作業にオペレーターとして参加している法人代表の子息を、後継者として育成していく方針とした。

また、汎用コンバイン、大型乾燥機を利用した収穫・出荷体制の整備とスマート農業の導入や、機械や管理作業の共同化により生産コスト削減と労働力軽減を図り、持続可能な経営を目指す。

育苗経験を活かし、新天地でピーマン栽培に挑戦

こ も り け ん じ し ぶ し
古森 健次さん (鹿児島県志布志市)

【取組内容】

令和3(2021)年から2年間、志布志市農業公社で研修を受け、令和5(2023)年に夫婦で新規就農。

ピーマンの育苗(10a当たり約1,000本)に取り組みながら、30aのハウスで反収16tの安定収穫を目指している。収穫物は全てJAへ出荷している。

【取組に至った経緯】

茨城県で15年間、果菜類の育苗に関わる仕事に従事する中で、自らもピーマン栽培に取り組みたいという思いが強くなった。しかし、茨城県内では農地確保が難しい状況であった。

そのような中、農業イベント(新・農業人フェア)で志布志市農業公社の研修制度を知り、充実した研修内容に魅力を感じ、家族4人(妻、子供2人)での移住を決意した。



古森さんご夫妻

【取り組む際に生じた課題と対応】

前職で育苗の経験があったことから、就農1年目は比較的高い収量を確保できたものの、2年目は灌水圧の問題とみられる生育不良が発生し、地域平均を下回る結果となった。

収量低下の原因把握に向けて地域の関係者から助言を受けながら、原因分析と技術習得、栽培管理の改善に取り組んでいる。今後も安定した収量確保に向け、技術力の向上を進めていく。



ピーマン栽培ハウス

【取組の成果】

昨年の灌水に関する課題を踏まえ、安定した収量の確保を目的に改善を進めた結果、令和8(2026)年2月までは地域平均を上回る収量を確保することができた。

一方で、3月以降は湿度調整などの環境管理が十分に行えず、病害が発生するなど新たな課題も生じている。これらの課題解決に向け、引き続き改善に取り組んでいる。



ピーマン育苗ハウス

【今後の展開】

当面は「安定した経営」の確立を最優先とし、現在の規模を維持しながら技術の向上を図る。

将来的には地域の平均単収を継続的に上回る収量の確保を目標としている。

* 志布志農業公社の研修内容等

- ・1年目：研修ハウスにて実地研修(月15万円(夫婦は25万円)の支給を受け、栽培技術等を学ぶ)
- ・2年目：研修を独立経営方式に移行(自ら生産したものを出荷して得る収益で生計費を確保)
- ・研修2年目に、就農準備として農業公社の斡旋を受けて就農地を確保できることが、研修生には大きなメリットとなる。
- ・販路は、ほぼ100%JA出荷で、経営の早期安定を図ることが可能。

学びを力に、酪農の未来を創る

株式会社 さとむら牧場 里村 睦弓さん（長崎県佐世保市）

【取組内容】

里村睦弓さんは結婚を機に長崎県へ。夫・貴司さんと共に牧場を経営。乳牛約60頭、黒毛和牛10頭など合計85頭を飼養、生乳生産量は1日に1,300～1,500kgで、出荷のほか生乳の一部は乳製品加工に使用している。オリジナル乳製品の製造・販売やSNS発信、自社牧場でのイベント「さとむら牧場まつり」の企画は、睦弓さんが主となって活動している。

【取組に至った経緯】

酪農というものを、地域の方や子供たちに身近に感じてもらい、酪農の価値を高めることが大切だと考え、オリジナル乳製品の製造・販売や「さとむら牧場まつり」の企画に取り組んでいる。各種大会にチーズを出品することも、チーズを通して牛乳や酪農に対する理解を深めて欲しいとの思いがあるからだ。

【取り組む際に生じた課題と対応】

非農家出身の睦弓さん。酪農の仕事と子育てをしながら大学へ通い、卒業後は大学院へ進学し農学博士号を取得。流通を学び、乳製品加工を自分たちだけで始めるなど、学んだ知識をアウトプットしようとしたが、売上げ向上に結び付かない時期があった。転機は全国から熱量高い女性農業者が集う「女性農業者のための事業推進力&チームマネジメント力アップ研修^{*}」に参加したこと。自身の意識と行動を見直すことができ、研修後も情報交換や互いのほ場視察を行い切磋琢磨する仲間が大きな財産となった。

【取組の成果】

さとむら牧場のオリジナルチーズは国内大会での金賞受賞を契機にメディア露出の増加につながり、売り上げも向上。テーマパークやレストランなど県内外問わず取引先があり、今では製造が追い付かないほどだ。地域貢献の思いを込め令和7(2025)年に初開催した「さとむら牧場まつり」は、SNSでの告知のみであったが予想を超える約1,000名が来場。この数字は、さとむら牧場の思いに共感した人、また酪農に関心を持つ人が多いことの表れでもある。今後も年に1回開催予定。睦弓さんの高い行動力や発信力は他の女性農業者にも波及し、地域の活性化にも寄与している。

【今後の展望】

牛舎の増設や、人材育成を通じて組織体制を強化するとともに、子育て世代が働きやすい環境整備にも注力したい。また、乳製品製造や「さとむら牧場まつり」を通じて酪農の価値をわかりやすく伝え、地域と共存しながら持続可能な酪農経営の実現を目指す。



里村さんご夫妻



さとむら牧場オリジナル乳製品



さとむら牧場まつり

^{*} 農林水産省「令和5年度補正予算働きやすい環境づくり緊急対策のうち女性の労働環境整備・活躍強化事業」

外国人材とともに進める持続可能な農業経営の取組

ベジエイト株式会社（宮崎県都城市）
みやこのじょう

【取組内容】

ベジエイト株式会社では、平成28（2016）年から外国人技能実習生の受入れを開始し、現在はベトナム人13名、インドネシア人2名が従事している。外国人材は、かんしょ・水稲・だいこん・ごぼう・ほうれんそう等の圃場での露地栽培作業に加え、選果場における収穫物の選別・洗浄作業を担っている。作業は、日本語の理解度や個々の適性に応じて丁寧に割り振られており、屋内の選果場があることで通年雇用が可能になり、農繁期・農閑期にかかわらず安定した労働力確保が実現した。

【取組に至った経緯】

現会長は、JA在職時に「外国人技能実習生受入れ生産者連絡会」の立ち上げに関わるなど、外国人材雇用への理解が深かった。この経験を背景に、同社は外国人技能実習生の受入れを決断した。さらに、より良い人材確保と長期的な人材育成、高度な技術指導を進めたいとの考えから、宮崎県が進める、「農業人材育成プロジェクト」を活用したベトナム国立農業大学と連携して事前教育を行う「宮崎クラス」修了生の受入れを行っている。令和6（2024）年2月には1期生9名を、令和7（2025）年7月には2期生3名を受け入れるなど、計画的に受入れが進んでいる。

【取り組む際に生じた課題と対応】

当初は作業上の指示に工夫が必要であったが、日本語の理解度に応じて作業を段階的に増やす運用とし、社員が手作りの単語カード等を用いた勉強会を実施するなどして、全員が技能実習評価試験に合格した。

当初入居していた県営住宅は事業所から遠く、送迎の人件費・燃料費・車両維持費が負担となっていたが、県・市と相談のうえ、自転車通勤可能な市営住宅に転居。夫婦実習生には借家、女性実習生には本社敷地内の寮を整備した。

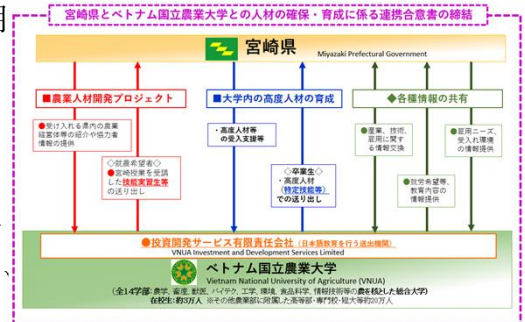
日本での生活ルール（ゴミ出し・交通ルール等）への適応については、ベトナムの「宮崎クラス」での事前研修、来日後の1か月研修により円滑な適応を支援した。

【取組の成果】

外国人材は仕事に対してまじめで丁寧、突発的な休暇も少なく、生産現場で極めて頼りになる存在となっている。また、日本語力が向上するにつれ任せられる作業も増え、本人たちの意欲向上にもつながっている。地域との交流が深まったことで、公民館での日本語講座の成果発表会におけるベトナムの紹介、清掃や地域イベント参加を通じ、地域住民との関係構築も進んでいる。

【今後の展開】

実習生からは、「特定技能試験に合格して、今後もベジエイト株式会社で働きたい。」との声が寄せられており、同社は意欲ある外国人材との長期的な関係構築を視野に入れている。また、実習期間終了後は、同社で培った技術や経験を母国の農業発展に活かしてほしいと考えており、外国人材のキャリア形成支援にも積極的である。地域農業の発展に寄与する「総合農社」を目指し、今後も「宮崎クラス」等の仕組みを活用した安定的な人材確保と育成に取り組む方針である。



宮崎県とベトナム国立農業大学の連携



選果場での作業



社内勉強会の様子